

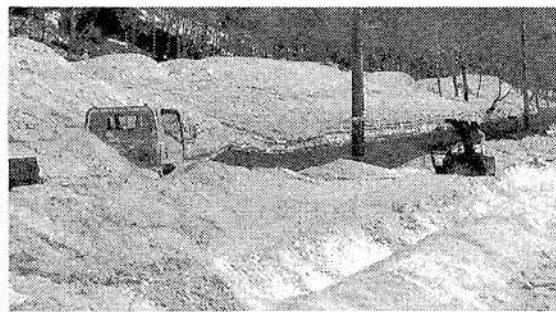
# フジコーホレーション

## ものづくり補助金で成果

### 鉄道車両向け部材量産化へ

除雪機、農業機械製造、鋼材加工販売のフジコーポレーション(本社・燕市、社長・藤井大介氏)は直近3年間のもものづくり補助金を活用し、精度向上や工程の効率化を進め新規用途の開拓や自社製品の高付加価値化を進めている。

2014年度の補助金を活用し、昨年末に導入したアマダ製ベンディングマシンはス



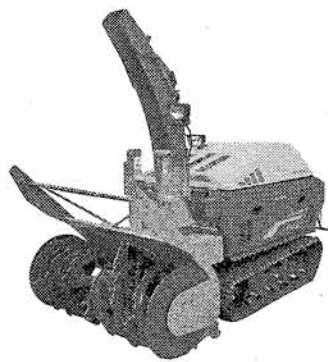
除雪機の投雪機能

の際、強度の面から理解された」という。昨春に導入したコマツ産機製サイプレスは、ものづくり補助金提案部品で(前年度比)約6%の生産量の伸びで成果が表れている。それらを活用した環境商品、農業機械部品向け供給も成果が発揮されている。「もともとNEDの開発案件。反りがでにくい打ち抜き加工が評価された。サイプレスは動力を生かした材料の送給を可能にした」と担当者。

環境商品は水処理プラント設備(スクリーンプレス脱水機)の部品で、脱水機の中に入る機能部品の製造を行っている。均一で反りのない打ち抜き加工技術が高く評価され年々品質要求が高まる分野だ。他分野への拡販も検討している。

12年度のものづくり補助金の案件は除雪機の開発案件。除雪機はスマート除雪機として操作面にLEDパネル式を採用し、決めた地点に投雪するロックオン投雪機能を改善。高齢者や女性でも扱いやすいよう操作性を向上させた。今後も成果を発揮し、自社製品の販売実績につなげていく。部品加工部門の成果も営業が取引先メーカーに紹介し、採用拡大を目指していく。

スマート除雪機



リングバックを考慮した高精度な鋼板加工が可能。鋼板の角度修正が不要になったことで品質向上、加工時間の削減、熟練工に頼っていた部分が軽減された。その効果を生かし、3月中旬から鉄道車両向けの納入が始まった。取引先から評価された点は「精度追求